



3月20日、岩国市中山間地域振興課・柱島出張所の主催で、柱島供用会館に講師を招き、地域での「支え合いの仕組みづくり」をテーマとした講座が開かれました。

これから“10年後に向けてどうする？”を主題に、地域計画である「夢プラン」や外部地域での取組事例などを紹介していただき、2時間にわたる講座となりました。

また、島民のみなさんからは日常生活での問題や課題等を挙げていただき、その問題や課題を解決するために、島の将来を見据えた取組・計画に向けた「話し合い」を提案していただくなど、たいへん興味深い内容の講話でした。

昨年の総務省からの公表によりますと、山口県の高齢化率は全国で3位と全国平均より10年早く高齢化が進んでいると報告されています。また介護人材も全国的に不足していると言われており、特に小規模離島では介護などの公的サービスが「受けにくい」「届きにくい」といった状況にあります。そのため公的サービスを必要とする利用者の多くが早々に、住み慣れた島を出ざるを得ないといったケースにも直面しています。

このことは柱島群島においても同様なことが言え、足腰が丈夫なうちは本土まで通院や買物などで出向くことができますが、「要支援」「要介護」ともなれば、それが徐々に負担となり、島の診療所や商店の往来さえも困難になっていくことが心配されます。

柱島を紹介！

柱島校舎と赤い郵便ポスト



〈学校グラウンドから多島美な島風景〉



〈平成 23 年 4 月から休校中〉

柱島港の船着場から少し歩き潮風と新緑が心地よい丘陵を登って行くと、樹々の中に柱島小中学校の校庭と、今は懐かしいレトロ感のある丸型の赤い郵便ポストが見えてきます。

この3階建ての柱島校舎は、夏に催される「柱島ふるさと祭り」や本市から児童を招いての「自然体験学習」などの宿泊所としても活用されています。

今も校舎の中に入っていくと卒業記念の作品などが掲示されており、多くの児童や生徒たちが学んでいた頃の様子が脳裏に浮かんできます。

また学校グラウンドは、島民のための緊急ドクターヘリ離発着場にもなっており、毎年、草刈シーズンになると島の有志たちによって環境美化活動が行われています。

戦時中には、柱島南沖の海域に停泊していた軍艦から水兵さんたちが降りて来て、学校のグラウンドで銃剣術・剣道・すもうなどの軍艦別大会が定期的に催されていたようです。